

藤枝市文学館第37回企画展

小川国夫

『彼の故郷』から40年

陽炎のかなたを見ようとして呼吸を整える―
なぜ私は、他愛もないとも言える遠い記憶を、

私流の仕方です自立させようとするのか―

『彼の故郷』後記より

2014年4月13日(日) — 7月13日(日)

開館時間／午前9時—午後5時 休館日／月曜日・5月7日(水)

※藤まつり期間中(4/19~5/5)は無料・無休で開館

※企画展「小川国夫と美術」と同時開催します

小川国夫作品『彼の故郷』(講談社)は、昭和49年(1974)に刊行された短篇集です。作品の舞台は、藤枝を含む駿河湾西岸域で、小川国夫の幼年期から青年期までの体験を素地として丹念に描かれた自伝的要素あふれる作品となっています。未知の世界や異邦人へのあこがれ、戦時下の死の影、行き場のない若者同士の暴力や鬱屈した情念が色濃く反映された『彼の故郷』の作品世界を紹介します。

写真：大正～昭和初期 藤枝駅のホーム



小川国夫 原稿「彼の故郷」



小川国夫 写真：相田昭



1



2



3



4



5

藤枝市文学館第37回企画展

Kumio Igawa 小川国夫と美術

※企画展「小川国夫『彼の故郷』から40年」と同時開催します

1. 「アポロンの島 ヴェスパ」(水彩)
2. 「波」(デッサン)
3. 「南瓜」(油彩/1946年)
4. 旧制静高時代の作品2 (油彩)
5. 『生のさ中に』(沖積舎版) 函絵 (水彩)
6. 旧制静高時代の作品1 (油彩)

※すべて小川国夫画



6

作家・小川国夫(1927～2008)は、病弱だった幼少期から絵を描くことに喜びを見出していました。高校時代には美術部を創部、休日にはスケッチブックを片手に駿河湾西岸から遠州灘に出かけ、デッサンをしていました。のちに美術論集などの執筆もおこない、能の世界やヴァン・ゴッホの研究などをする一方、自ら描いた絵を作品の挿絵や表紙に使用したり、「小川漫画」と呼ばれる漫画を描いたり、美術に深い関わりをもっていました。

今回の企画展では、「小川国夫と美術」にスポットをあて、画家との交流を紹介し、また小川自ら描いた絵や書を展示します。書斎に遺されていた旧制静高時代の油彩画やデッサン、書籍の函絵にも使用された水彩画など、美術に関心を持ち続けた小川国夫の一面をお楽しみください。